



チャリティーショップ

2000年10月1日

セカンドハンド通信 No.22

本部事務局 〒760-0052 香川県高松市瓦町2-6-13
TEL&FAX 087-861-9928 発行責任者・新田恭子
E-mail: 2nd-hand@eskimo.com http://www.eskimo.com/~2nd-hand/

SECOND
HAND

セカンドハンドカンボジアスタディーツアー

(財)三菱銀行国際財団助成事業

カンボジア・スタディーツアーは今回で8回目。8/19~30の11日間、セカンドハンドの支援先であるピートゥヌー小学校やNGOを訪問し、活動の成果を見てきました。そして、今回もすばらしい出会い・ふれあいがありました。参加者の想いが詰まった報告記をP2~P5に掲載しています。尚、報告記のノンカット版はHPに掲載しています。

●ラチャナハンディクラフトバタンバン訪問 (8/23)
ラチャナの皆さんと。ホームステイ楽しかった!



●ホームランド孤児院訪問 (8/23・25)
子供たちと輪になって。
みんなすぐにうちとけました。



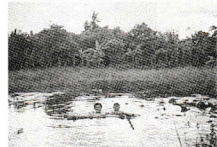
●SVA図書館活動見学 (8/21)
ニード図書館へ本を届けました。
大切に使ってね。



●タイ・バンコク
バンコク最大のスラム・クロン
トイ地区を見学。
劣悪な環境下で暮らす人々を
目の当たりにして言葉が出ない... (8/29)



●ホームステイ (8/23・24)
ホームステイ先にて。池で泳いだ!



●アンコール遺跡群見学 (8/26・27)
タ・ソム遺跡にて

●セカンドハンドが建設支援した「ピートゥヌー小学校」訪問 (8/22)
始業を知らせる鐘がなると一斉に教室へ戻っていきました。



●先生とディスカッション。
日本とカンボジアのちがいにお互い驚きました。



●ピートゥヌー小学校に通う生徒の家庭を訪問。



・シエムリアップ

カンボジア

・プノンペン

スヴァイリエン

建設支援校が決定しました!



老朽化により壁が全くない校舎

ピートゥヌー小学校と同じスヴァイリエン州にありベトナムとの国境近くに位置するチアティーチ小学校がセカンドハンド8棟目の支援校に決まりました。周辺の6つの村から生徒が通うチアティーチ小学校の創立は1945年。しかし、クメール・ルージュ時代に校舎が壊され、1980年に村人たちが自力で学校を再開しました。現在、3棟の校舎のうち鉄筋コンクリートの校舎は1棟だけで、他の2棟は老朽化が進んでいます。トタン屋根と傷みが激しい柱だけの教室で、多くの子供たちが学んでいます。崩壊の危険性もあり、特に雨の日は落ち着いて授業が受けられず、保護者たちもとても心配している状態です。

現在の生徒数は約900名ですが、教室不足のため168人が就学できずにいる上、全日制ではなく2部制にせざるを得ない状況です。セカンドハンドの支援で、2001年3月までに、鉄筋コンクリートレンガ造り平屋建の校舎1棟(5教室)、トイレ1棟(4部屋)が建設される予定です。

今、カンボジアでは子供の数が急増しています。少しでも多くの子供たちが学ぶことのできる学校建設のために、より多くの支援をお願いします。*建設費470万円 11月着工、3月完成予定



柱もぼろぼろで、いつ崩れてもおかしくない

- CONTENTS -

☆特集 セカンドハンド スタディーツアー 1~5p
☆イギリスOXFAM訪問記 6p

☆支部だより 7p
☆お知らせ 8p

SECOND
HAND

「セカンドハンド」は皆様から無料提供していただいた衣類や生活用品を販売し、その収益金すべてを援助にあてるチャリティーショップです。主にカンボジアでの学校建設や識字教育など、教育支援をおこなっています。また、カンボジアの地雷による障害者など、経済的、社会的に立場の弱い人たちが作る商品を現地のNGOから輸入し、販売することで、自立を支援しています。店舗や倉庫は無料でお借りして、お店番などの活動は無償で働くボランティアスタッフが支えています。

1週間に1度、2時間程度で結構です。あなたもボランティアで世界の誰かのために役立ってみませんか?

SECOND HAND STUDY TOUR

私に何ができるの? 筑波大学3年 高橋亜津子



セカンドハンドのお店の扉に貼ってあるポスターの「あなたも世界の誰かのためにボランティアをしてみませんか?」の言葉。もともとセカンドハンドで活動していたわけではない私は、実はセカンドハンドについてもカンボジアについても全くと言っていいくらい解っていなかった。カンボジアに行く前は気に留めてもなかったその言葉が、帰国した日、やたら目にとまり、今でも心に残っているのは、今回の旅がまさにその「誰か」と出会った旅だったからだと思う。そして出会えたことで、私の中で何かが変わった。

カンボジアには絶対的な貧困問題が影を潜めている。小学校に通えない子、親に売られた少女、ストリートチルドレン、労働に従事する子、物乞いをする子…。子どもだけではない。大人もだ。地雷で体に障害を持ち、その体を使って物乞いをする人、経済発展の中どんどん開いていく貧富の差。会社勤めなど月収を経済基盤として

いる人口が全体の15%、あとの85%は自然の影響を直接受ける農業に従事している。大家族を養うには食糧

も足らず、子どもを学校に行かせてやれないと嘆く親たち。
日本ではありえない状況を毎日目の当たりにして、ツアー中私はずっと悩んだ。「私に何ができるの?」このようなことは、毎晩行われたミーティングでも何度か話し合った。そして出された結論は、差し出された手にお金や物をのせるのではなく、それを生み出す社会を変えるために、何か(例えば教育の機会を与える等)をすることであった。時間がかかろうとも、社会を変えなければ、問題の本当の意味での解決はできないから…。個人にできることは小さい。しかし、必ず必要な力だということを忘れずにいたい。

例えば、セカンドハンドも行っている、学校を建てるという大きなプロジェクトには資金が必要だ。学校に限らず、何を支援するには資金が必要になってくる。お金を出す



ミーティングは毎晩。議論は尽きなかった。



カンボジアらしい平原風景。

となると、なにか傲慢な響きもするが、その資金は、一人一人の気持ちがあって集まるものだ。しかし、大事なことは、支援につながる商品を買うにしても、それを単なる購買とみなすのではなく、その支援の内容や、自分の出すお金の使われ方、そこまでちゃんと知って理解してからこそ、意味があるのだと思う。

日本という国で何不自由なく暮らしていて、それが当たり前と思っていた私に今回の旅は良い意味でショックを与えてくれた。もともと私は、海外支援に関わる仕事がしたいと思い大学に進んだが、毎日の学生生活の中でその気持ちは失せていた。また、海外支援というと「現地(海外)でばりばり活躍する!」というイメージが先行しがちだが、日本にいながらにいてもできることはたくさんあり、また、東京のような大都市でなくても、その気さえあれば地方でもできること、始められることをセカンドハンドの活動を通じて再確認した。といっても、香川県をみると、私の実家がある西讃では、国際協力やボランティアに関して学んだり携わる機会が圧倒的に少ないと思う。だから、いずれ自分が、西讃地区で、学べる場を設けたり、関われる機会を提供するような活動をしたいという目標ができた。私に何ができるの?

今、私ができること。それは、私がカンボジアで、この目で見たこと、この肌で感じたこと、この胸で思ったことを、たくさんの人に伝えること。まずはそこから。今回学んだことをもっともっとたくさんの人と共有したいから。

私にもできる国際協力 高松市立二番町小学校6年 高松スタッフ 鈴木咲恵



最年少の参加者です。

同じ小学生なのに…。私はセカンドハンドが建設した小学校を訪問した時にそう思いました。

私がこのスタディーツアーに参加しようと思った理由は、セカンドハンドでボランティア活動をしているので、自分の活動がどのように役立っているのかこの目で見たいと思った事と、一つ一つの物の見方が変わってくるかもしれないと思ったからです。実際にカンボジアに行って、今の日本はみんなが十分、生活できるだけのお金を持っているし、新しい服、新しいくつをいつも身につけていると思います。それに、学校もきれいで勉強するのに十分な環境が整っているから、何て恵まれていて豊かな国なんだろうと改めて感じました。

でも、日本人だからこそ、いろいろな面でボランティアをできるチャンスがたくさんあるのだと思います。カンボジアに建設した小学校は、生徒にとっては勉強がしたくなるようで先生にとっては授業がしやすくなったりと、とても使いやすいみたいです。

私のボランティアをしたいという気持ちとみんなのボランティアをしたいという気持ちが集まったら、小学校が建ってしまうぐらい大きな力になります。日本には、ボランティアをしたいという人もいればそうでない人もいます。それは人それぞれだけど、自分が豊かならまわりの人も豊かになるようにがんばる事は大切だと思います。

私は、小学校を訪問したとき、同じ小学生なのにカンボジアと日本ではどうしてこんなにちがうんだろうと感じ、だったら私には何ができるだろうと考えました。日本で、セカンドハンドのボランティアをいっしょけんめいやって教育支援をしたりとか、カンボジアでの体験を伝えていたり、もっとたくさんのことができると思います。でも一番大切なのは少しでもたくさんの人に東南アジアの国々を知ってもらおう事だと思います。その国のよさを知り、国際協力について考える人が増えたらいいです。私が今回のスタディーツアーで学び考えた物は少しでもみんなに伝わってほしいです。



ラチャナで作った服を試着!

SECOND HAND STUDY TOUR

前略。カンボジアへ行ってきました。

専門学校講師・大阪支部スタッフ
徳 芳郎

今回の旅行で一番気になった点は、物乞いをする子供たちでした。特に観光客の集まる所には必ずといってよいほど、物乞いをする子供たちがいました。カンボジアに着いてすぐは、物乞いをする子供たちにお金をあげてはいけなくて頭では分かっているのですが、それと同時に「何故目の前で困っている人を助けられないのか？」という罪悪感に悩まされました。もし、あなたが目の前に物乞いをする幼い子供たちが来たらどうしますか？

私は今回の旅行でいくつかのヒントをもらいました。カンボジアのNGOスタッフが目指しているのは与えるだけの援助ではなく、自立を目指す援助だということです。学校建設を管理しているSVAは校舎の建設を建設会社ではなくコミュニティの人々に依頼しています。自分たちの学校を自分たちで建てるという意識付けです。バタンパンのラチャナもそこで働く女性たちが自分たちで作った製品を販売して給料を得ています。バンコクのシーカーアジア財団が支援するスラムも街の運営は徐々に住民が行っているそうです。

私は罪悪感から逃れるために「お金をあげてもいいんじゃないか」と、考えていたのですがそれは単なる自己満足に過ぎなかったようです。これからもセカンドハンドの活動に関わっていくのですが、カンボジアの人々の自立につながる援助ということをしず意識していきたいと考えています。



ラチャナでの技術訓練の様子。厳しそうでした。

でも、あなたにだけは教えますが、私も、自己満足をするために活動をしているところがあります。ピートゥヌー小学校を訪問したときに、壁に掲げてある「SECONDHAND」の文字に感動しました。自分が「ちょっとしかお手伝いしてませんが、」やってきた成果を見て、本当に満足しました。でも、この自己満足が、この活動を続ける力になるのならばいいのかな、と今は考えています。活動を続けることによって違う考え方もできるようになるのかもしれない。

書きたいことはたくさんあるのですが、それは今度お会いした時に話します。

草々

追伸。10/13～15にツアーの報告会をします。あなたも是非お越し下さい。この手紙で書ききれなかったこともお話ししたいと思います。



私がカンボジアからもらったもの 会社員 浦川阿主加



孤児院で。

私がこの国の雰囲気慣れるのにそんなに時間はかからなかった。

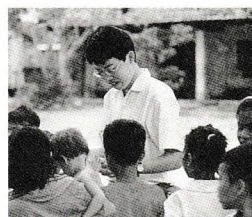
私のステイ先、レッドさん一家は温かく私を迎えてくれた。主に2階部分が住いになっていて、床は下が見える程のすき間がある。2畳もない台所・トイレへははしごを降り、外に出から行くようになっている。トイレの水は桶ですくって流す。まな板は石。お風呂は水瓶の水を浴びる。思ったよりそこの生活が苦にならなかった。日中はブイ(娘15歳)の自転車の後に乗って市内観光。何軒もの家におじゃまし、行く先々で果物・お菓子などをもらった。みんな知っている限りの英語で話しかけてき、シャイだと聞いていたが腕を組んだり手をつないでできたりと、彼らは意外にもフレンドリーだった。カンボジアは経済上は貧しい国だけれども人々から心の貧しさは感じられない。道ですれ違う人、目が合うとみんな笑顔をくれる。その目は綺麗で輝いている。

セカンドハンドが建設したピートゥヌー小学校へ行った。カンボジアでは多くの生徒が2～3年留年してしまう。その理由として教材が足りない事や、中にはお腹が空いていて勉強に集中できない子がいるのだと言う。日本の子供と比べると小さい。個人にノートはなく、小さな板とチョークで勉強している。新しい校舎で勉強していてもまだまだ足りないものがいっぱい。新しい物が大好きで、要らない物、食べられない物を捨てていく日本人。私たちが無駄な物に使っているお金を少しでも分けてあげられたらどれだけの子供たちが勉強することができるだろう。

私ははっきり言ってボランティアの事に詳しくなかったし、カンボジアについても全く知らなかった。けれどこの旅で、素晴らしい出会いをし、同じ地球人として互いに助け合い協力していく事の素晴らしさを教えてもらった。そしてみんなが平和で幸せな生活をするために私たちが自立への援助をしていかなければいけないんだと。



カンボジア料理はおいしかった！



教育の「カンボジアと日本」 高松南高等学校2年・高松スタッフ 坂元亮久



進級試験に落ちて補習授業を受ける生徒。今度試験に落ちたら留年です。

僕はこのツアーに参加して世界は広い、広いから自分の考えを超えたことばかりだな、と思いました。

カンボジアについては驚くことばかりだった。地雷で片足を失った人が、「お金を下さい」としきりに言っている姿、自分が言われた時、対処の仕方がわからなかった。片足がない人を初めて見た恐さと、お金をあげるべきか無視するべきか、たくさんの事が頭の中をまわってわからなくなっていたから。

子供たちを取り巻く環境、教育のことには最も関心があった。

僕は今学生だけど、「教育とは一体どういうものなのか」「何のためにするものなのか」と考えます。自分自身や友人関係を良くするため、社会に出てからのため。理由は色々あるけど、カンボジアの子供たちはどう考えているのだろう。ある家では、両親が「良い教育を受けて、どこかしっかりと勤めて家族を養ってほしい」と言っていた。子供たちも自分のためではなく、家族のためにと思っているのかもしれない。

そして、教育を受ける場所、学校が日本とどう違うのだろうかということが、僕の最も知りたかったことでした。

まず、カンボジアの小学校には、留年、再留年というのがある。最も日本と違う所です。出席日数が足りなくても、勉強がそれ程出来なくても、日本にはありません。こう見ると、日本の学校は少し甘く感じます。

他にも、十分な教科を教えてあげられないとか、「来たくても来れない」という子供が大勢いて、その点、日本は恵まれていると思った。

やっぱり、子供たちにとって必要な教育は、十分に与えられるように努力しなければいけないと思う。それが、カンボジアという国を発展させていくことにつながるのだから。自分で出来る範囲でサポートしたいと思う。それは相手のためにも、そして自分のためにもなるのだから。

SECOND HAND STUDY TOUR

教師として見たカンボジア 詫間町立箱浦小学校勤務 藤田文子



カンボジアの代表的デザート、かぼちゃのプリン。

学校現場に勤めているものとして、カンボジアの子供たちのたくましさを目の当たりにして心底羨ましく思った。カンボジアでも特に貧しいスヴァイリエン州。セカンドハンドはそこにも学校を建てていて、そこに勤める先生方とディスカッションすることができた。*その中で、いろいろと考えさせられることに出くわした。

カンボジアでは給料が安いので、教師は副業を持たなければ生計が立てられない。日本の教師は恵まれていると感じる。また、落第制度があり、特に1・2年生の落第が多いと言う。進級テストに受からないと落第である。家の手伝いをしていて出席日数が足りなくなり落第する例もあるという。日本では出席日数が足りなかったり、成績が悪いのになぜ進級させるのかと問われたときには、答えに詰まってしまった。義務教育だからと自分自身には答えたものの、本当にこのような状況でいいのだろうかという疑問もわきおこってきた。

学校に行っても勉強したいのに行けないカンボジアの子、学校に行こうと思えば行ける状況なのに行かない日本の子。使い込まれた教科書をナイロン袋に入れて、大事そうに持って、通っているカンボジアの子。日本の子で、あれだけ教科書を大切に使い込んでいる子がいるのかしらと思ってみたりもした。

有り余る品物を与えられ、精神的にたくましさをもっている日本の子。対し、物質的には恵まれないけれど、雨が降っても傘などささず裸で走り回ったり、水溜りの中で泳いでいる子。観光客について回って、ガイドまがいの事をしたり、ものを売って観光客から幾ばくかのお金を稼いでいる子等々。少々のことではへこたれないたくましさを見たように思う。

初めは、地雷で手足を失った人たちがたくさんいて大変な国だろうと思っていたが、若い人たちが多く、将来性のある国だと感じた。産業構造が十分に整備されていないので、まだまだ世界各国の援助を必要としている国だということも感じた。



日本から持参した卒業アルバムに「きれい」と見入る先生たち。



ステイ先の家族と。

支援とボランティア

香川大学・高松スタッフ 岡本竜也

今回スタディーツアーに参加して、私は支援のあり方、そしてボランティアとは何かということ自分なりに考え、学ぶことができた。

支援とは私にとって、資金や物的なもの、つまり食糧や薬剤、また人道支援、医療支援といったものが、豊かな国から貧しい国へと送られ、一時的であれ、効果のあるものと思っていた。

しかし、スタディーツアーの中で、多くのNGOを視察していく中で、支援とは決してその場限りで終わるものでなく、より進歩できる可能性を秘めているものと思った。

今回訪問したラチャナというNGOでは、日本から資金や足踏みミシンを送ることで、単に女性へ技術を身につけさせるだけでなく、社会的に女性自立の機会を提供している。

民族や宗教の境界線を乗り越え、相手の立場、社会環境を考慮し、援助される側は支援に頼るのではなく、それを糧として、自らが考え実行し、一步一步前に向かう努力をする。それが支援の形ではないだろうか。

また、ボランティアのあり方も考えるよい機会となった。ボランティアといっても、身近には町内の清掃作業やお年寄りへの介護、



憧れのアンコールワット。スケールが大きかった。

道端に落ちたタバコの吸殻を拾うなど様々なことを実践できる場がある。ボランティアといえば、重く考える人もいると思うが、日常の些細なことでも、そこには人間らしい思いやりや慈愛があり、一つ行動を起こすことで何か自分の心の中に残るものが得られる。それがボランティアだと思う。

カンボジアという最前線に行き、子供たちの笑顔や多くの人に感謝されたことで、言葉はなくても心には伝わってきて、自分自身のセカンドハンドにおける活動と重ねあわせてみてそう感じた。

笑顔

四国学院短期大学2年 吉原深歩



子供たちに折り紙をプレゼント。

私のカンボジアに対する知識といえば、ポルポト政権における民衆に対する弾圧と相次ぐ内戦の歴史。政治的に抑圧され貧困にあえぐ民衆というものだった。そんな中、私が目にしたものは…

それは、村人や子ども達の「笑顔」だった。どうしてこの子たちはこんなに無邪気に楽しそうに笑っているのだろうか？決して裕福とはいえない生活の中で、なぜここまで楽しそうに笑えるのだろうか？と、笑顔に会うたびにそう思った。しかし、子ども達は楽しいから笑っているものであり、裕福・貧しいとは全く関係のないもの。「可哀そう」そう思っていた気持ちは、カンボジアの人からしてみれば大きなお世話だった。確かにカンボジアは、経済的には豊かな国ではない。でもその地に踏み込めば、特にこれといって不自由さは感じさせないし、感じなかった。

そんな時、久しぶりに感動した。笑顔・喜び。「相手に感謝する」という事だ。折り紙ひとつにしても興味を持ち、出来上がった時にはすごい喜んでくれた。私としては普通に作っただけなのに、みんなすごく嬉しそうにしてくれるから、私自身幸せな気持ちになったし、作りがいがあった。しかし今の日本にはそれがあるだろうか？

笑顔、それは裕福だろうか貧乏だろうか、何事にも変えることが出来ないもの。豊かとは？日本みたいに便利なモノがたくさんある事ではない。カンボジアは貧しい国かもしれない、でも心の豊かさがある。そしてイキイキとした笑顔がカンボジアにはある。

私もカンボジアの人に負けないような笑顔を忘れず持っていたい。



笑顔がキラキラしている。

SECOND HAND STUDY TOUR

感謝の気持ち

高松工業高等専門学校
石岡泰代

いよいよホストファミリーとの対面の時がやってきた。快く私を迎えてくれるだろうか、お風呂やトイレに行きたい時意志が通じなかったらどうしようか…思えば思うほど不安が募った。けれど一番楽しみにしていたのがホームステイだった。ステイ先はセカンドハンドが支援しているラチャナで働くスタッフの家庭で、ラチャナから一番近く、近代的な家だった。家に入ると、待ちかまえていた様に視線が私の方に向けられた。みんなニコニコしていて好意的だった。



未来をあげたい

セカンドハンド事務局
石井頼子

カンボジアで多くの物売り、物乞いをする子どもに出会った。本来なら学校へ行って勉強し、遊んでいるはずの子どもたちが働いていた。彼らから物を買うかどうか、彼らにお金や物をあげるかどうか、これは私たちの毎晩のディスカッションによく持ち上がったテーマだった。彼らから物を買うことで彼らの生活が今一瞬でも潤うのなら…という複雑な気持ちを胸に抱きつつ旅を続けていたが、ようやく答えが出た。彼らから物を買うことは子どもの労働を支持する、と同等の意味を持つ。



カンボジアの家庭の食事風景。

荷物を置くとお姉さんの存在のソベアが、ノーヘルでバイクに乗せて市内をぐるりと回ってくれた。どこへ行ってもヘルメットをかぶった人を見ない。これには驚いたが乗ってみるとスリルがあって面白かった。

家には両親が貧しく彼女たちがめんどろを見て

いるという男の子がいた。日本では10歳くらいに見える彼だが、実は14歳だった。カンボジアでは、栄養失調で体が小さかったり、髪が茶色になる子ども達がいると知った。日本では考えられない事だった。もし私がこのツアーに参加していなかったら、日本の身近な国でもまだこんな子ども達がいることを知らないままで、何不自由なく生活し、学校に行けて、友達と遊べて…これが当たり前でいたと思う。

お風呂やトイレでは、日本での無駄使いを思い知らされた。石造りの囲いの中に水を貯めていて、その水をすくって体にかける。トイレも同様、バケツの水を救って流す、手動水洗のようだった。それも必要以上使わない。日本だとシャワーはずっと出っぱなしで、無駄にしている水があるはずだ。でもカンボジアでは必要なだけすくって使う。無駄がない。ステイ先では本当に学ぶものがたくさんあり、何度も反省した。

カンボジアの人たちはとても友好的で温かくて、親切だ。彼らと出会い、生活を体験したことで自分の物に対する気持ちが変わったと思う。また感謝の気持ちをいつも持てる様になった。心からこのツアーに参加させてくれたみなさんにお礼を言いたい。本当にありがとうございました。



日本とカンボジアの「12歳」



観光客についてくる物売りの子供。

慢性的な社会問題は一瞬の潤いでは解決できない。「何とかしてあげたい」…誰もが持つ優しい気持ちは、時として押さえなければならぬのだと気付いた。それと同時にこの社会への疑問を感じずにはいられなかった。一人で世界を変える事は出来ないけれど、まず自分が変わること、それが世界を変える一歩になる。たとえ時間はかかっても

動かなければ、何も変わらない。目の前の同情ではなく、よりよい未来をあげたい。

この旅から帰国して、驚いた。これまで日本がこんなに豊かで清潔で恵まれている、と感じたことはなかった。この差は何だろう。今までの暮らしの中で当たり前・普通だったことが、奇妙に感じられた。同じ地球に暮らす人間なのに、経済的なこの大きな差。複雑な経済・歴史の中で生み出されてきた問題といて、知らん顔はできない。日本にいても支援・協力できることはたくさんある。人々が公平にそして尊厳を持って平和に行きていける世の中に変えていくために、まず自分が変わること。そして人へ伝えていくことの大切さ・重要さを再認識した旅だった。

日程 2000年8月19日～8月30日(11日間)

参加者 全国から12才～50才の11名

参加費 24万円

(自己負担金12万円 (財)三菱銀行国際財団からの助成金12万円)

カンボジアスタディツアー 報告会&写真展を行います

日 時:10月13日(金)～15日(日)

10:00～18:00(最終日17:00)

場 所:丸亀町レッツ(高松市丸亀町商店街)

今回のツアー参加者それぞれの目から見たカンボジアを報告します。ぜひご来場下さい。

報告会:13:00、17:00(最終日16:00)

次回スタディツアーのお知らせ

2001年2月実施を予定しています。セカンドハンドの活動を理解し、協力する気持ちのある方であれば年齢不問!どなたでも参加できます。

詳細は次回ニュースレターをはじめ、決まり次第HP、店頭でお知らせします。

絵本を届けました！

カンボジアには現在、学校などの教育施設や教材が不足しています。こども向けの絵本もほとんどない状態です。

学校に行ける子どもでもない子ども絵本に触れてほしい、文字や言葉を知りたいだけでなく豊かな心を育ててほしい、そんな思いから絵本を集め、スタディーツアーの際に持参しました。

今回届けた絵本は22タイトル47冊。高松市図書館や、皆様から寄贈していただいた絵本にカンボジア語訳を貼って、プノンペンのお寺の中にあるニロード図書館とバタンバン州にあるホームランド孤児院に届けました。絵本を受け取った子供たちは皆うれしそうに、目をキラキラ輝かせながら読んでいました。小さい子に読んで聞かせる年長の子、一文字一文字なぞりながら読んでいく子、絵本を大切にぎゅっと抱き締める子など皆それぞれが絵本が届いたことをとても喜んでいました。



受け取った本を早速読む子供たち。
バタンバンの孤児院で。

セカンドハンドでは現在もカンボジアに届けるための絵本を募集しています。訳文の都合上、絵本のタイトルは48作品、出版社も指定しています。詳細はセカンドハンド事務局またはホームページでご確認下さい。集まった絵本は次回スタディーツアー時カンボジアの子供たちに届けます。



ニロード寺内の図書館で絵本を手に
記念撮影。

OXFAM研修報告記

(その1)

(財)三菱銀行国際財団・(社)協力隊を育てる会助成事業

イギリスには多くのチャリティーショップがあります。その中でも最大の組織が、セカンドハンド設立のモデルになったOXFAMです。今年6月、OXFAM本部と在英日本大使館に多大なご協力をいただき、OXFAM研修に行ってきました。今回から数回にわたって現地の事情を報告します。

OXFAMのショップはイギリス国内に約860店舗あります。ロンドン市内でも数十店舗ありますが、今回はロンドンから電車で約40分離れた所にあるパークハムステッドという小さな町のOXFAMで2日間のボランティア体験をしてきました。

どの町のOXFAMでもそうですが、パークハムステッドのOXFAMも例外ではなく、町のメインストリートの中心地にありました。マネージャーは65才のオードレー・ホープさん。ボランティアマネージャー歴10年以上というベテランです。白とブルーで統一された店内は明るく、商品がきれいにディスプレイされていました。商品提供をする人、買っていく人…。店に入り出すお客様がひっきりなし、という印象を受けました。スタッフの一人に「セカンドハンドでは全国から提供品が届くのですが、提供品を送りたい人はどこに送ればいいのか？」と聞いてみると、ちょっと変な顔をされ、「どの町にもチャリティーショップがあるから誰も送ったりしないのよ」と言われました。近くにお店があれば、わざわざ送る必要はありませんね。組織の規模の大きさを感じました。

店内では常時数名のスタッフが作業をしていました。店頭ではレジや商品の補充、バックルームでは提供品の仕分けや値付けの作業をてきぱきとこなします。商品の値段は1ポンド99セント、4ポンド99セントの様にどれも99セントの端数がついていました。「スーパーマーケットと同じで割安感を感じてもらうこともありますが、目的は釣銭の小銭をレジの横の募金箱に寄付してもらうことにあります」ホープさんの言葉どおり、多くのお客様が釣銭を募金箱に入れていました。研修に



店内の様子。すっきりとまとめられている

来たという学生スタッフ、毎日来ている主婦のスタッフ、「こんな私でも社会の役に立てることが嬉しい」とレジに座って微笑むご年配のスタッフ…。セカンドハンドの同じようなスタッフの姿が重なって見えました。あるスタッフが担当時間の後に店の商品を購入しているのを見て「スタッフは安く買えるという特典があるのですか？」(セカンドハンドでは無論ありませんが)と尋ねると、「絶対にありません。支援のためのより多くの資金を作るのが目的なので、スタッフは率先してそれに協力すべきです」と言われました。生き生きと働くスタッフの皆さんの根底に、「途上国支援のための資金作り」という共通の目標と強い意識を感じました。(事務局・深田真理子)



OXFAMパークハムステッド店前で、
ボランティアマネージャーのホープさんと。

☒ 遠いのでなかなかお手伝いやお店に足を運ぶことができなくて残念です。帰省したときにはお手伝いに行けたら、と思います。長野県坪田様→お待ちしています！

◆◆支部便り◆◆

各地に広がるセカンドハンドの手…。
店舗探し、ボランティア募集など難しい問題はあるけれど、地道に頑張っています。

川口支部

- 川口支部は7/1～7/7まで臨時で店舗をお借りする事ができました。

場所は商店街でお客さんも多く、たくさんの方にセカンドハンドを知っていただけたと思います。



9/16西口公園フリーマーケット(川口)の様子

- 9/16は川口駅の西口公園でフリーマーケットに参加しました。

フリーマーケットの季節!

どんどん参加していきます。情報提供もお願いします。

岡山店

- 岡山支部は7/22にお店を閉めました。

今は次なる店舗を探しています。

店舗情報、ボランティア参加などは是非ご連絡ください。

福岡支部

- オープンして3ヶ月、ブランド品をお目当てにお客さまも徐々に増えてきました。

店舗の床がベタベタで困っていたところ、スタッフのカンボジア語の講師、メンアンさんがボランティアで業務用機械を使い、スッキリきれいにしてくれました。お近くの方、福岡店へいらして下さいね。もちろんボランティア参加、フリーマーケットのお手伝い大歓迎です。

高松の出店情報

- ツアー写真展・報告会&チャリティーバザー

日時:10月13日(金)～10月15日(日)10時～18時(15日は17時まで)

場所:丸亀町レッツ(高松市丸亀町商店街)

- 高松市市民文化祭「秋の音楽祭り」

日時:10月15日(日)10時～16時

場所:高松市民会館ロビー

- かがわ国際交流フェア

日時:10月15日(日)

9時半～16時

場所:高松市中央公園

- 田町楽市楽座

日時:10月21日(土)・22日(日)

10時～18時

場所:高松市田町商店街

- Kampoふれあい感謝デー

日時:10月29日(日)10時～16時

場所:高松簡易保険事務センター



8/20みとよマリンウェーブバザー(香川)の様子

大阪支部

- 8月のスタディーツアーに参加し、セカンドハンドの役割の大切さを改めて感じ、大阪発セカンドハンドに気持ちがこもっています。

夫婦でフリーマーケットに参加するので、仲間が欲しい……が、今の願い。

- 秋の出店情報!…お手伝いスタッフ募集中!

10月29日(日)信愛女学院幼稚園バザー(大阪市城東区)…カンボジアグッズのみの販売

11月5日(日)追手門学院大学将軍山祭

フリーマーケット

11月12日(日)服部緑地公園民家集落

南広場フリーマーケット10時～4時まで

「ぜひ、見に来て下さい」

SPECIAL THANKS<敬称略>♥♥♥

<無料での店舗・倉庫提供>=ビーバーホームズ(株)吉原(瓦町店)、GINCHO榎村(丸亀町店)、ファンク岡山(岡山店)、高橋(福岡店)、弘陽商会・金丸水産中村(倉庫)、<助成金>=(財)三菱銀行国際財団、<出店協力>=タカギ薬局(川口)、みとよ青年会議所、田町商店街、百十四銀行、阿波銀行、高松南高校ボランティア部・高松西高校、<ライブ協力>=Hair of Hearts、Reon、Flake、シシリーアイランド、<発送作業協力>=津田中学校、三木中学校、桜町中学校、高松中央高校、三木高校、他たくさんの方々、<寄付>=廣瀬隆人、坂元和子、中澤力、香川日仏協会、森谷芳子、澤田、奥田、竹代江利、山口、ダブル宮崎真夫<その他>=マルイ観光バス、(株)アドプランター川添(瓦町店の看板製作・取り付け)、甲斐(空調機取付け)、エクリュ・ジャポン(福岡店へ什器提供)、高松市立図書館、高松中央ロータークラブ、(株)松本光春商店、佐川急便、錦郵便局、アイニチ(株)

*お手伝いいただいたスタッフの皆様、商品を提供して下さった支援者の皆様、いつもありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

☒ ボランティアって意味の深いものですね。私はボランティア活動から喜びや達成感を得ることができました。私のこんな思いがみんなにも伝えられ、分かってもらえるように生徒会新聞に載せたり、生徒会朝礼で話したりしようと思います。香川県津田中学校生徒会の皆さま→いつもありがとうございます!

information

カンボジア報告会&写真展

10/13・14・15(金・土・日)
午前10時～午後6時(15日は5時まで)
丸亀町レッツ(高松市丸亀町商店街)
同会場でのチャリティーバザーの
お店番、前日の搬入・準備ボランティ
アも募集しています!

楽器を集めています!

ニカラグアの音楽学校に送ります。
トランペットやクラリネットなど。
詳細は本部にお問い合わせください。

寄付・募金のお願い

いつでも受付けて
います。

ご協力をお願いします。
振込先

●百十四銀行田町支
店普通口座0765402

セカンドハンド本部

新田恭子

●郵便局記号16330-2
番号9654291

セカンドハンド代表者
新田恭子

お振込の際、本部に
ご一報いただければ幸
いです。



ニュースレター発送作業を お手伝いしていただけませ んか?

次回の発送作業は12/23(土)
の予定です。お手伝いいた
ける方は参加可能な時間と人
数を本部までお知らせください。

衣類提供、受付のお知らせ

秋物衣類の受付...10/31まで。
冬物衣類の受付...10/15から。

受付期間外の提供はご遠慮ください。

受け入れ品、期間については変更もあります
ので電話でご確認いただくと助かります。

皆様のご理解・ご協力をお願いします。

◆提供される前にニュースレター21号の「保
存版!提供品について」P4,5をご覧ください。
ご希望の方にコピーを差し上げます。本部まで。



本部事務局専任スタッフ募集!

国際協力・チャリティーショップの
運営に意欲を持ち取り組める方。
詳細は本部まで。

ボランティア募集

お店番、ディス
プレイ、倉庫作業、
事務などあらゆる
作業があります。
あなたの力を活
かして下さい。

ゲームで学ぼう!国際協力!ボランティア交流集会のご案内

日時:10月29日(日) 場所:香川大学法学部・経済学部

セカンドハンドは国際協力の分科会を担当します。

ゲームを通して国際協力についての理解を深めましょう!

参加ご希望の方はセカンドハンド本部まで。

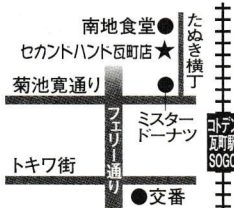
カンボジア水害被害者への支援を!

被害はかなり大きいと報告を受けています。
店頭で募金箱を設置しました。
ご協力をお願いします。

カンボジア新商品入荷

8月のスタディツアーで
メンバーが直接選んでき
ました。

瓦町店



■セカンドハンド瓦町店
■セカンドハンド本部
〒760-0052
高松市瓦町2-6-13
TEL&FAX 087-861-9928
(営業時間 10:00~18:00)

丸亀町店

■セカンドハンド丸亀町店
高松市丸亀町14-5
TEL: 087-822-3552
営業時間:
10:00~19:00



福岡店

■セカンドハンド福岡店
〒810-0035
福岡市中央区梅光園1-2-7
高橋ビル2F
TEL: 092-761-6307
(E-mail) r-kimura@highway.ne.jp



支 部

■セカンドハンド岡山支部

岸 090-7371-5777
小村 090-2291-0248

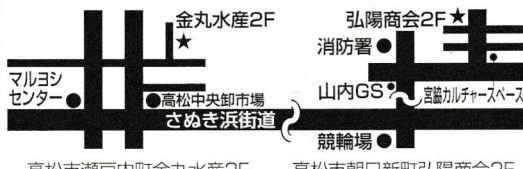
■セカンドハンド川口支部

早船 090-8331-4503
(E-mail) hayafune-n@mte.biglobe.ne.jp
(Homepage) <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~hayafune/>

■セカンドハンド大阪支部

徳 070-5680-0109
(E-mail) tokuyo@d1.dion.ne.jp

倉 庫



高松市瀬戸内町金丸水産2F 高松市朝日新町弘陽商会2F
※商品を郵送する場合には瓦町店にお願いします

☆このニュースレターは三ヶ月に一度5000部発行しています。
封筒作り、発送作業等をボランティアで行い、約3500部を全国
の支援者へ無料で発送しています。購読ご希望の方は、ハガキ、FAX、
メールなどでお申し込み下さい。